

1. 開催趣旨

気候変動による水災害の激甚化・頻発化に備え、河川整備等のハード対策に加え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を推進する必要があります。

「流域治水」のさらなる推進に向け、今後、必要な治水対策についてのパネルディスカッションを行うとともに、地域住民の方々に理解を深めていただくため、シンポジウムを開催しました。

2. 開催概要

日時：令和4年12月4日（日）

場所：いわき産業創造館（いわき市）

主催：福島県、夏井川流域治水協議会、
鮫川流域治水協議会、藤原川流域治水協議会

3. 講演内容

○基調講演

『2級河川における流域治水とは』

長林久夫（日本大学名誉教授）

○基調講演

『福島県における気候変動と防災気象情報の利活用』

桜井美菜子（気象庁福島地方気象台長）

○講演

『マイ避難の取組について』

福島県危機管理課

○パネルディスカッション

『いわき方部のこれからの流域治水の推進に向けて』

コーディネーター：長林久夫（日本大学名誉教授）

パネリスト：藤城良教（いわき市副市長）

桜井美菜子（気象庁福島地方気象台長）

丸山和基（国土交通省福島河川国道事務所長）

橋本孝一（夏井川流域の会長）

曳地利光（福島県土木部長）

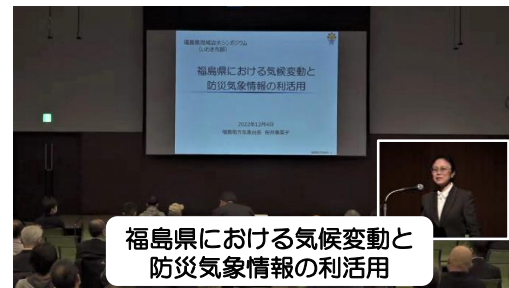
4. 講演状況



2級河川における流域治水とは



開催挨拶



福島県における気候変動と
防災気象情報の利活用



パネルディスカッション



マイ避難の取組について



開催状況

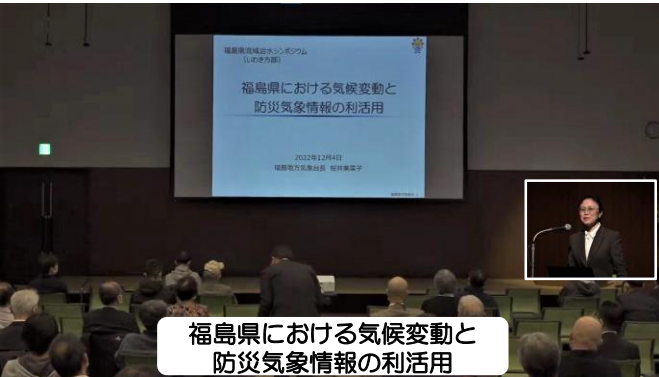


2級河川における流域治水とは

小流域の流水抑制対策は限られるけども、地域資源を生かした抑制対策や地域特性を生かす被害軽減対策がある。何よりも、まちづくりや人づくりに期待することが多いということです。

最後に、家庭や地区単位での持続可能な防災計画のお話をさせていただきました。

流域治水が30年先の減災まちづくりの推進になるように、住民が施策の中心にあれば、これがオーダーメイドの流域治水であるというふうに考えます。



福島県における気候変動と防災気象情報の利活用

気候変動、地球温暖化に伴う気候の変化というのは、既に始まっています。福島県もいわきも同じだというふうに思ってください。すなわち、リスクが高い時代に私たちは生きていくんだ、生きていかなきゃいけないんだというふうな認識で備えていくことが必要だろうと思います。

その時に、心構えとしては、過去の経験にとらわれないということ、そして、大雨時には、最新の防災気象情報を、ぜひ、ご利用いただきたいというふうに思います。

最後に、ご紹介したキキクルも、ぜひ、活用していただいて、少しでも皆さん、お一人お一人が命を守る行動の判断に使っていただければというふうに思っております。



マイ避難の取組について

この水害、土砂災害につきましては、自分で、まずは危険リスクのところを確認していただいて、日頃から避難を考えていただく。そのために、このマイ避難シートの作成のほうを、ぜひ、お願いします。自分の命と大切な命を守るためにということで、県のほうで推進しております。



いわき方部のこれからの流域治水の推進に向けて

1つ目は、流域治水の目標と展開の見える化を図ることだというふうに考えております。現在の進行状況、それから、進行状況に合わせた見やすさ、可視化する取組というものは必要である。そうしなければ、この流域治水は流域の住民の方が理解しにくいものになってしまうということだと思います。

2点目でございます。災害には、L1、L2の区別がなく、避難確保が十分なものとするということだと思います。マイ・タイムラインを家庭のみならず、学校や職場、事業所等で作成することが大事だというふうに思っております。注意報、警報に合わせた行動をとって、災害時には全員が災害発生前に避難完了しているということが、非常に重要になります。

3点目でございます。家庭、自主防災組織、学校、職場における避難行動計画の継続的な運用のサポートづくりが必要であるというふうに考えます。何よりも、この防災は、次世代を取り込んで、防災リーダーを育成していく取組が必要であるというふうに考えます。

流域治水は30年先の減災まちづくりの推進計画で、住民の方がその施策に中心でなくてはならない。それで初めて展開可能だというふうに考えてございます。それが、オーダーメイドの流域治水になるものと、自分では確信しております。